

第2回日中砂漠化機構解明研究シンポジウム開催のお知らせ

1. 日 時：1995年2月28日～3月2日
2. 場 所：科学技術庁研究交流センター
(茨城県つくば市, 0298-51-1331)
3. 主 催：科学技術庁
中国科学院
(後援(予定)：日本気象学会 他)
4. 問い合わせ先：科学技術庁地球科学技術推進室
担当 今泉
(03-3581-5271, 内線427)



気象研究所講演会「今年の記録的猛暑」開催報告

日本各地で最高気温を次々と更新し、西日本を中心に水不足をもたらした猛暑と渇水についての研究の情報交換の場を提供する目的で気象研究所(茨城県つくば市)では「今年の記録的猛暑」という講演会を平成6年10月1日に開催しました。

希望者が気軽に参加出来るように土曜日午後1時からとし、手作りポスターを各研究機関に送付して掲示を依頼したり、気象学会パソコン通信や日本経済新聞等の協力を得て宣伝を行ったものの開催までの日が少なく、果たして何人の参加があるか蓋を開けるまでは心配でした。当日の(東京からの)一番乗りの方は午前10時30分にお見えになり、その後も続々と参加者が増え、講堂に200用意した椅子が開始後すぐに足りなくなり、更に追加を行ったものの立ち見が続出し講堂からはみ出る人も出て、総計245名(最高年齢80歳)の参加といううれしい誤算となりました。

講演は、筑波大学地球科学系安成哲三教授の司会の下、まず気象庁長期予報課酒井重典予報官による「この夏の天候と循環場—記録的異常高温と少雨—」という題で日本のこの夏の実態の講演が行われました。

次に気象研究所気候研究部小出孝主任研究官による「記録的な猛暑はいかにしてもたらされたか?—気候

力学の立場から見た94年夏の気候大循環のいくつかの様相—」という題でQマップという大気の流れを追跡する新しい手法を用いた講演がシミュレーションビデオと実験装置も駆使して行われました。

最後に東京大学気候システム研究センター新田勲教授による「今年の猛暑と熱帯対流活動」という題で熱帯西部太平洋の対流活動やアジアモンスーンと猛暑との関連性の講演が行われ、その後全体の質疑応答があり、予定時刻を40分程超過して午後5時40分に終了しました。

交通機関が便利とは言えないつくばでの開催でしたが、つくば市内からは約40%(茨城県全体では約58%)、東京都約20%、その他関東各県の他、静岡県、京都府、広島県、鳥取県からと遠路はるばるの参加があり、さらに気象庁関係者以外の参加者が全体の75%と、猛暑に対する社会の関心の高さをあらためて知りました。また、この講演会後に、様々な機関で同種の講演会やシンポジウムが相次いで開催されたことを考えると、良いきっかけ作りになったと自負しています。

なお、この講演会の模様は、気象庁の測候時報に掲載し、広く読んでいただけるように計画しています。

(気象研究所企画室)